

おお大勝利

令和4年度 山東サッカー一部報第4号 (5月12日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Mリーグ3連勝で県総体の切符つかむ

4月29日(金) 地区総体につながる**村山地区リーグ**、通称**Mリーグ**が開幕しました。**30日(土)、5月1日(日)までの3連戦**。4チームでのリーグ戦ということだが、3リーグあるうち県総体の切符が7つあるとのことなので、2位以内に入れば県総体に行くことができる。ということは、1敗までは許される。もちろん、全勝の1位通過を狙うが、背水の陣と表現するほどの切迫感はない。

山東は昨年Mリーグ・地区総体での成績が良かったので¹、3日間とも明正Gの第1試合。**初日の相手は創学館**。以前は、「電波」と呼ばれた実業系私立で、前監督は山東OB。昨年、何らかのタイミングで試合を観たとき、個の力のある選手が複数いて、面白いチーム(将来性のあるチーム)だな~と思っていた。だから、初戦の相手が創学館と聞いてから、緊張してました。まあ、どこが来ても、緊張するんですが。

試合が始まると早速山東ペース。試合開始間もなく、**3年CB「帰ってきた男」カンチャンことカナタ**のナイスロングボールから**3年FWカナタ**が抜け出し、GKとの1対1を制して先制に成功。その後もカナタを中心に優勢に試合を進める。2点目は右足首の靭帯損傷を押して出場した**2年マサツナ**がドリブルから右足で逆サイドネットに転がすシュートで追加。試合前、「右足で蹴るとまだ痛いので左で蹴ります」と絶望的コメントを発していた彼だが、強すぎないシュートがコースの正確性を生んだか。山東は中盤の守備の意識も高く、相手の「ボールを持てる選手」を自由にさせず、攻撃の形を作らせない。**前半3対0で折り返す**。そうそう、前半のどこかのタイミングで、空中での競り合い際に**2年リュウキ**が腕を持って行かれて、肩を脱臼してしまうアクシデントが発生。リュウキの代わりに、**1年神町中出身のケンヤ**を起用。ケンヤはボランチ志望なので、1年生をたくさん起用した前節のリーグ戦でも出番がなかったものの、トップ下でなら可能性ある(プレーをすることができる)と見ていた。早速その見立てを試す。すると後半ケンヤのミドルシュートが突き刺さったり、最後に守備固めで投入した(つморいの)**2年カルロスことトシキ**²が**2年ユーゲン**の丁寧なクロスを押し込んで点を決めたり³、さながら山東祭りの様相を呈する。結局後半5点追加し、8対0の大勝。望外の成績です。

¹ 昨年の地区総体で明正に勝ち、4位に入ったことの効果が翌年出ました。3位以上のチームはMリーグ免除のY1のチームのため、Mリーグに臨むチームの中で最上位チームということになり、3日間明正G10:00キックオフの権利を得ました。

² 左SHが今までは本職ですが、この時はトップで前線からのハードな守備を命じました。彼は陵南中出身で、OBのキムタクの弟です。

³ カルロスの得点のシーンでは、後ろにマゴロクことカイが控えていて重なって見えたという事情もあり、ベンチの選手間では「えっ誰の得点?まさかカルロス?」という静かな時間が流れました。少ししてカルロスの得点とわかり、公式戦初出場の選手が残り5分くらいで本職でないFWで投入され、いきなり得点したものだから、ベンチでは「カルロスマジか、ナイスゴール!」との大歓声が沸き起こりました。視覚情報さ

2日目4月30日(土)は**山形工業戦**。山形工業は前日上山明新館に勝利しているため、リーグ戦における事実上の決勝戦となるか。この試合でも、試合早々に**カナタ**が独走から得点して、試合を楽にしてくれる。追加点と3点目は**3年ボランチシュンスケ**。特に3点目は(山東でもっと増やしたいと思っている)ヘディングシュートによる得点で、価値が高い。シュンスケは中盤にて上背から考えると信じられないほどヘディングを成功させてチームに貢献しているが、1年次から結構ヘディングシュートも決めている。野球的に言う、「当て感」があると言ったところか。守備でも、**2年CBヤマト**が着々と経験を積んでいるし、同じく**CBカンチャン**はまだフル出場はならないものの腰痛で離脱する前を明らかに超えるパフォーマンスを見せている。**左SBコンニャク**はシュンスケの3点目のヘディングシュートをアシストするクロスを上げるなど、特に攻撃での貢献が目立つ。そしてこの試合、3対0で勝利したが、**3年右SBゴッチャンことソウタ**が相手と交錯して倒れて鎖骨を骨折してしまった。ゴッチャン全治2か月・・・地区総体はおろか県総体も応援に回らざるを得ない。他の部員、特に3年生の部員はゴッチャンのためにも県総体を戦わなければならない。ゴッチャンも右SBのファイターとしてパフォーマンスを上げてきた矢先の故障。ということで、今期に入り、毎試合、大きめの故障が続発している。「そろそろ祈祷さんなねね」とベンチで話になる。

3日目5月1日(日)は**上山明新館戦**。大敗しない限り、2位以上は確定している。もちろん謙虚に勝ちを目指さなければならないが、リーグ戦の有利な状況から、スリーバックという新しいシステムを試す余裕がある。このスリーバック(3:4:3というか5:4:1)、昨年のは前半は粘りに行く戦いの中で主に用いていたシステムだったが、今季の練習試合では混乱があり、あまり良いイメージはない。ただ、チームが主に用いるプランAが行き詰ったときの「プランB」があるのとないのでは大きな違いがある。ということで、プランBを作りに行く。そして、勝つことが大前提ですが、けが人を出さずに勝ちたいところ(これは本当に)。**今季ずっと先発のショーゴ、前日から先発のケンヤ**に続き、「ゴッチャンのポジション」に(ショーゴと同じ)**ジェラーレ出身のホスト**が先発に名を連ね、**1年生3名が先発**となった。試合が始まると、不慣れなシステムのせい、山東の選手の動きが固い。そして、明新館の守備の連係が良い。個ではなく線、線ではなく面で守備してくるし、前からも積極的にアプローチして、(攻撃の)狙いを持って守ってくる。「まあ、引き分けでもいいんだから(リーグ1位なのだから)焦ることはないか」と平静を装って観ていると、またルーズなボールを受けた**カナタ**が抜け出して得点する。チームとして中途半端な戦いの中でも得点を入れる(そして勝つ)って、とっても大切な力であることを実感する。「そういえば、昔ムンタリっていうべらぼうに得点力のあるFWいたっけな～」などと回想する。カナタは(得点力では、シュートのうまさでは)ムンタリに及ばないものの、やっとなムンタリと比較したくなるFWが現れた気持ち。結局この試合、**カナタのハットトリックで、3対0で勝利**。スリーバックに慣れたとわけではないですが、故障者なしで勝てたことが最も収穫。

これで、このリーグ1位で気持ちよく県総体行きを決めることができた。保護者の皆様、Mリーグが無観客で実施され、試合を観ることができず、残念だったことではあると思いますが、ともかくも県総体を決めました。**陰ながらの応援ありがとうございました**。また、3日間とも顔を出された**清野総監督(山東サッカー部後援会名誉会長)**、**工藤先輩(清野総監督と山東同期)**、**後藤報道局長**、ありがとうございました⁴。**岸後援会会長(山形県サッカー協会副会長)**も山形工業

え妨げる思い込みの力の強さを思い知りました。

⁴ 3人とも、チームスタッフとして、名簿に記載し、健康状態を記入して、会場に提出しております。

戦を視察に来て下さいました。ありがとうございました。

地区総体 幸運な6位フィニッシュ

5月7日(土)、8日(日)はMリーグの結果を受けた**地区総体**。他競技はもう1週後の14日・15日の主会期に地区総体を行いますが、サッカー専門部は1週早く県総体も始まること、地区総体主会期とサッカー県総体開幕の間が2週間しかなくプログラム作成が間に合わないこと、以上の理由によりこの日程で行われた。

山東はMリーグを勝ち抜いたことから、Mリーグ免除されたY1のチームもエントリーするトーナメント戦を名誉のみ懸けて争う。山東の初戦の相手は、**公立校の雄山形中央**。会場は**山形市球技場**。この会場では観戦が認められているので、受付を設けて、保護者の観戦を可能にした。待ちに待った保護者も多かったことでしょう。ゴール裏には、**新調した「燃えよ山東魂」の横断幕**がたなびく。そう、この日、風がとっても強かった。山東は前半、**佐竹コー千**のアドバイス通り、風上を取った。後半は風向きが変わるかもしれないのでね、「しっかり風上」と言える前半のうちにそのアドバンテージを掴もうという訳。

試合が始まると、やはり山形中央ペース。山形中央の選手、個々にスピードがあり、山東DFのルーズさを確実に突いてボールを深く(深いところまで)運んでくる。最後のクオリティを欠くので得点までには至らないものの、山形中央の力強さが目立つ前半。また、これまで攻守にわたり存在感を發揮してきた中心選手も、山形中央相手にこれまでと同じような存在感を發揮できていない。特に**グッチ**は中盤でのボールロストが目立った。私の見立てでは、彼は山形中央相手でも活躍できる力があるので、Y1レベルとのマッチアップの経験不足だろう。前半粘って両チームスコアレス。後半は、**セットプレーからヘディングがらみで2失点**し、結局**0対2の敗戦**。後半風下に立ったら、なかなかボールを運べなくなりましたね。いかにGKジャッカルやCBカンチャンのロングボールに頼った攻撃をしてきたかがわかる内容だった。まあ、多くの方の予想通りの結果でしょうが、予想通り過ぎて面白くない。こういうところで、アップセットを起こす山東でありたい。また、これまで数多くのセットプレーを得てきたが、まったくものにできなかった**ヘディングでの競り合いの弱さが、今度は守備における弱点として露呈**してしまった格好となった。山形中央は、地上戦でも、空中戦でも、いろいろな得点の仕方を知っていると感じた。対戦できて自分たちの立ち位置を確かめられて、良かった。そう感じた地区総体初戦でした。

8日午前は、初日部員のコロナ感染により不戦敗となったチームが引き続き不参加となったため、**山形東の不戦勝**。これにより、同日の午後(17時近くキックオフ)の**5位決定戦**に回る事となった。先発選手+αは15:00集合にしたが、それ以外の選手は不戦勝となった試合の分も含め運営をしなければならなかったため、8:30集合となり、1日サッカー場にい続けるハードスケジュールとなった……。私も朝から晩までサッカー場にいまして、この日は疲れしました。とまあ、愚痴はさておき、5位決定戦の相手は、5月4日に練習試合をしたばかりの**山形南**。公式戦で東南定期戦をせよ、ということだろう。ただし、山東は午前中不戦勝だったものの、山南は、メキメキ力をつけている、選手権では旋風を吹かせると予想される山形明正相手に快勝して臨むので、2試合目ということ。**1試合目というフレッシュなチームにアドバンテージがある、確実に**。そのアドバンテージをものにできますかね〜。

さて、試合が始まると、**アドバンテージを吹き飛ばす山南ペース**。やはり山南、普通に強い。

そして、山東、このレベル相手に試合を優位に進めることができず、攻撃の線が細い。得意のカナター本槍の状況。それでも「一発入るのでは」と期待して観ていたが・・・攻守にわたり山南が上だった。**ジャッカル**の好セーブもあり、運よくスコアレスで乗り切ったが、山東のビッグチャンスと言えるシーンはなかった。交互に入れ替わり中盤に降りて来る山南ツートップを捕まえきれず、山東 DF ラインの前で起点を作られ、ゴール前までボールを運ばれてしまっていた。お手本にしたい攻撃が多かった。**結局両チームスコアレスで、PK 合戦突入**。2 試合目のチームとの引き分けは、実質的には負け。ただし、公式戦で PK 合戦を戦えるのはありがたい。「PK 合戦の連敗記録をここで止めよう」と声をかける。しかし・・・**二人目で蹴ったシュンスケ**が「トヨバッチの呪縛」を解こうと、県新人と全く同じコース⁵に狙って蹴ったものの、またもや GK に止められ、**結局 PK 合戦 3 対 5 で敗戦**。またもや、PK 合戦負け。まあ、県総体まで、毎日 PK 合戦の練習をして、万全の準備をして臨みましょう。

今週末またすぐ県リーグ戦です。明正 G での県リーグ戦ですので、**残念ながら無観客**となります。陰ながらの応援よろしくをお願いします。

5月14日(土) Y3A 第4節 東海大山形C戦 16:00 キックオフ@山形明正

保護者総会・歓迎会・激励会 講堂で挙行

M リーグ初戦 5 月 29 日 (金) の夕方、山東講堂にて保護者総会・新入部員激励会・県総体激励会が開催されました。この日は午前中 M リーグ、午後は PTA の保護者会。それが終わった後の講堂を借りて行われました。3 年前までは 4 月末または 5 月頭にホテルで開催されていた。一昨年は (インターハイの代替試合の行われた) 7 月にホテルで実施した。昨年は書面総会のみで、歓迎会や激励会が行われなかった。コロナ対策としては分かるし、保護者の連携が取れている学年だったのでそれも理解できるが、激励や歓迎の会がなかった部員にとって寂しいだろうと感じていたし、その下の代 (現 3 年生・2 年生) の保護者の方々は連携を図る場が入部以来ずっとなかったことになるわけで⁶、保護者にとっても寂しい状況だった。飲食を伴わなくとも、講堂で実施できればと考えていたが、四釜会長はじめ役員の方々のリーダーシップにより、講堂での実施と相成りました。

保護者総会のあと、山東サッカー部後援会から、清野名誉会長、岸会長、後藤報道局長をお招きし、スピーチを頂戴するとともに、部員一人一人の意気込みのスピーチ、1 年生の一発ギャグ、そして、保護者による応援歌「おお勝利」斉唱及びエール⁷と、これまでの伝統を引き継いだ形の会となり、大変有意義な場となりました。会終了後は、各学年の保護者が集まり、自己紹介。これで今後、保護者の方も少し打ち解けて応援ができることでしょう！

保護者の皆様ありがとうございました。

⁵ そして、この春卒業したトヨバッチが 2021 年の県総体で狙った PK のコースと同じコース。

⁶ 3 年生保護者はかろうじて、1 年次の 7 月の会がありました。3 年生保護者に聞くと、現状で誰が誰の親かわからないとのこと。

⁷ 指揮を執ったのは、私と山東サッカー部で同じ代の会田さん (ショーゴ父) と一つ先輩の橋本さん (シーナ父) でした。お疲れさまでした。